

## 「わが子を呼び出した」 ～悲しみのクリスマスから始まったこと～

### 悲しみのクリスマス

それは、イエス・キリストが誕生した時に起きたのです。東から来た博士たちは「ユダヤ人の王として誕生されたお方はどこのおられますか」とヘロデ王に尋ねたのです、

ヘロデ王はクリスマスのニュースを聞き「おれこそ王だ」と不安と憤りを覚えたのでした。

主イエスが誕生した近くの地方にいる二歳以下の男の子を、ことごとく殺してしまうのです。「うれしいクリスマス」の出来事の背後で、実は「悲しみのクリスマス事件」があったのです。

### 幼な子イエスの家に起こったこと

イエスを殺そうとしたヘロデの事件により、どんなことが、幼な子主イエスの家族に起こったのでしょうか。幼な子主イエスを連れてエジプトに家族ごと逃げたのです。

エジプトに逃げて、戻ってくるという出来事は、実は旧約聖書の出エジプトの出来事の再現です。

「奴隷の生活から脱出して、約束の国に帰る」という旧約聖書での出来事が再現されたのです。

これは、イスラエルの失敗の歴史の「踏み直し」だったのです。

### 失敗の歴史の踏み直し

野球でベースを踏まないでまわった時には、踏み直しが必要です。でもホームランで、回り終わった後の踏み直しはゆるされないそうです。

私たちの生涯もいくら後悔しても元に戻ることは出来ません。しかし、イエス・キリストにあって、過去の罪がゆるされるときに、過去の生活の意味が変わってくるのです。

聖書はこのところで、イエス・キリストがエジプトに逃げてもう一度帰ってきたことを、「エジプトからわが子を呼び出した」と表現しています。

ある説教者が「過去は変えられないが、意味は変えられる」ということを話しておられます。

苦しみや悲しみがどうしてあるのかという問いに対して、「 $1 + 1 = 2$ 」というような答えはないのです。しかし、苦しみ、悲しみの中で神がどのようなことをされたかを知ることができます。

### ウクライナで起こったこと

ある宣教師が、ウクライナに行ったときに聞いた話しです。

「七人の子どもを育てていたクリスチャンがいて、子どもにイエス・キリストのことを教えていた。近所の子どもたちも集まるようになり、それが、国家機密警察に知られ、逮捕 12 年間の刑務所生活をしたのです。

獄から出て来て孤児院を訪ねて回り、子どもを引き取ったのです。しかし、最後の一人が見つかりません。色々な孤児院に行って「これだ」という所に行ったのです。所長さんは「そんな子どもはいない」との返事です。

帰ろうとしたときに食堂から口笛が聞こえてきました。何と、「いつくしみふかき」の賛美でした。その少年を見つめました。12 年もたっており、自分の子どもか確信がありません。そこで一緒に口笛を吹いてみたのです。そしたら、ぴったり！二人は抱きあって再開を喜んだのです。この宣教師は「わが子を呼び出した」のです。

### 私たちにも起こること

聖書に「だれでもキリストにあってあなたは新しく創造された者になる」という約束があります

御子イエス・キリストは、十字架の上で死んで葬られたのです。しかし父なる神は、御子イエス・キリストを死から呼び出されたのです。そうして三日目によみがえられたのです。

わたしたちも、主がわたしたちを色んな中から、悲しみの中から、わたしたちを呼んでおられます。「わたしのもとに帰りなさい」

その声に応答するときに、イエス・キリストを通じて「新しく創造された者」とされていくのです。

よいクリスマスを！ 牧師 小林光生